



- (1) 時を表す前置詞 since・for・during について、それぞれが表す時間的な意味と用法の違いを正しく説明しているものを1つ選びなさい。
- ① since は期間の長さ、for は継続の起点、during は経過後の時点を表す
 - ② since は継続の起点、for は期間の長さ、during はある期間・出来事の間を表す
 - ③ since は継続の起点、for はある期間の内部、during は期間の長さを表す
 - ④ since は経過後の時点、for は期間の長さ、during は継続の起点を表す
- (2) study・work・play などの動作動詞を用いて、習慣ではなく、現在のある時点を中心として一時的に行われている動作を表す場合、原則としてどの形を用いるか。
- ① 現在形 ② 現在進行形 ③ 現在完了 ④ 過去進行形
- (3) have died と have been dead では、同じ「死ぬ」に関係する内容でも、出来事と状態のとらえ方が異なる。その違いとして最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① have died は「死ぬという出来事の完了」、have been dead は「死んでいる状態の継続」を表す
 - ② have died は「死んでいる状態の継続」、have been dead は「死ぬという出来事の完了」を表す
 - ③ have died は「死ぬ動作の継続」、have been dead は「死んだ経験」を表す
 - ④ have died は「過去の習慣」、have been dead は「現在進行中の動作」を表す
- (4) 疑問詞 When ～? 「いつ～」を用いて、過去の出来事が具体的にいつ起こったのかという過去の時点を探る場合、原則としてどの時制を用いるか。
- ① 現在形 ② 現在完了 ③ 過去形 ④ 過去完了
- (5) 次のうち、動作そのものではなく、認識・所属・類似・感情などの状態を表す動詞だけで構成されているものを1つ選びなさい。
- ① know, belong, resemble, like
 - ② study, know, like, work
 - ③ have, run, understand, belong
 - ④ resemble, cook, want, write
- (6) 副詞 already「すでに・もう」を用いて、ある動作が現在より前に完了し、その完了を現在との関係からとらえる場合、原則としてどの時制を用いるか。
- ① 現在完了 ② 過去進行形 ③ 現在形 ④ 未来進行形
- (7) for three years のような「for＋期間」を含む文の時制を判断する際の考え方として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① for が期間を表すため、時の基準に関係なく必ず現在完了を用いる
 - ② for が過去からの期間を表すため、時の基準に関係なく必ず過去形を用いる
 - ③ その3年間で現在まで続いているのか、過去の期間として終了しているのかを確認する
 - ④ for は継続を表すため、現在形や過去形とともに用いることはできない

- (8) go・come・leave・arrive などの往来発着動詞を現在進行形にした場合、現在進行中の移動だけでなく、文脈によってどのような意味を表すことがあるか。
- ① 過去に繰り返された習慣
 - ② すでに予定・手配されている近い未来
 - ③ 現在までに経験した出来事
 - ④ 過去から現在まで続く状態
- (9) How many times ～? を用いて、過去の特定期間ではなく、現在までの経験として「これまでに何回～したことがあるか」を尋ねる場合、原則としてどの時制を用いるか。
- ① 現在形 ② 過去形 ③ 現在完了 ④ 現在進行形
- (10) 状態動詞の特徴を、動作動詞や瞬間動詞との違いを踏まえて説明したものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 時間の中で行われる具体的な動作・行為を中心に表す動詞
 - ② 一瞬で成立・完了する出来事や変化を中心に表す動詞
 - ③ 状態・感情・所有・認識など、ある状態にあることを中心に表す動詞
 - ④ ある場所から別の場所への移動や到着だけを表す動詞
- (11) ago は *three days ago* のように用いられる。この表現が示す時間の基準と、それに対応する時制について最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 過去のある時点を経験として、それより前を表すため過去完了を用いる
 - ② 現在までの期間を表すため、現在完了を用いる
 - ③ 現在を経験として「今から～前」という過去の時点を表すため、原則として過去形を用いる
 - ④ 未来を経験として、それまでの期間を表すため未来完了を用いる
- (12) since + 過去の時点と study・work・wait などの動作動詞を用い、その動作が過去に始まり現在も続いていることを強調する場合、原則としてどの形を用いるか。
- ① 現在形 ② 過去形 ③ have + 過去分詞 ④ have been + V-ing
- (13) 否定を表す never と not について、それぞれが表す意味の違いを最も適切に説明しているものを1つ選びなさい。
- ① never は「一度も～ない」という経験・頻度の否定、not は「～ない」という一般的な否定を表す
 - ② never は「まだ～ない」という未完了、not は「一度も～ない」という経験の否定を表す
 - ③ never は「めったに～ない」という低頻度、not は「決して～ない」という強い否定を表す
 - ④ never は過去の否定だけに用い、not は現在の否定だけに用いる

(14) 現在進行形の主な意味・用法の組み合わせとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 現在進行中の動作／一時的な動作・状態／変化の途中／近い未来の予定
- ② 現在進行中の動作／現在の習慣・反復／一般的事実・真理／近い未来の予定
- ③ 現在進行中の動作／現在までの経験／一時的な動作・状態／一般論
- ④ 現在の状態／現在までの継続／変化の途中／現在までの完了

(15) before「以前に」を用いて、過去の特定時点ではなく、現在までの経験として「以前に～したことがある」と述べる場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在形 ② 過去形 ③ 現在完了 ④ 現在進行形

(16) 瞬間動詞について、動作動詞・状態動詞との違いを踏まえた説明として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 一定期間にわたって持続する状態を中心に表す動詞
- ② 時間の中で継続して行われる動作だけを表す動詞
- ③ 一瞬で成立・完了するととらえられる出来事や状態変化を表す動詞
- ④ 現在において繰り返される習慣的な行為だけを表す動詞

(17) yesterday と since yesterday では、時間のとらえ方が異なる。その違いと時制の関係として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① yesterday も since yesterday も過去の時間だけを表すため過去形を用いる
- ② yesterday も since yesterday も現在との関係を表すため現在完了を用いる
- ③ yesterday は特定の過去の時を表し、since yesterday は昨日を起点として現在までの広がりを表す
- ④ yesterday は現在までの期間を表し、since yesterday は過去の一時点だけを表す

(18) have opened と have been open では、出来事と状態のとらえ方が異なる。その違いとして最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① have opened は「開く・開けるという出来事の完了」、have been open は「開いている状態の継続」を表す
- ② have opened は「開いている状態の継続」、have been open は「開くという出来事の完了」を表す
- ③ have opened は「開いた経験」、have been open は「現在進行中の開く動作」を表す
- ④ have opened は「過去の習慣」、have been open は「現在までの経験」を表す

(19) 頻度を表す often が文中にある場合の時制判断について、最も適切な考え方を1つ選びなさい。

- ① often は現在の習慣を表す語なので、どの文脈でも現在形を用いる
- ② often は経験の回数を表す語なので、どの文脈でも現在完了を用いる
- ③ その反復・習慣が現在・過去・未来のいつに属するかを確認して時制を決める
- ④ often は現在の頻度だけを表すため、過去形や未来表現とは併用できない

(20) 次のうち、移動・到着・出発など、人や物の往来発着を表す動詞だけで構成されているものを1つ選びなさい。

- ① go, come, leave, arrive
- ② run, walk, swim, study
- ③ know, come, belong, leave
- ④ arrive, work, go, resemble

(21) yet を用いて「まだ～していない」「もう～したか」のように、現在までの完了・未完了について述べる場合、原則としてどの形を用いるか。

- ① have+過去分詞 ② 過去形 ③ 現在形 ④ will+原形

(22) How long ～? が、過去から現在までの継続ではなく、普段どのくらい時間がかかるか、通常どのくらい続くかを尋ねる場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在形 ② 現在完了 ③ 現在完了進行形 ④ 過去完了

(23) arrive・die・begin・finish などの瞬間動詞と for ～ / since ～ の関係について、最も適切な説明を1つ選びなさい。

- ① 瞬間動詞が表す出来事そのものには時間的な幅がないため、その出来事自体の継続を for / since で表すことは原則としてできない
- ② 瞬間動詞は出来事の継続を表すため、原則として for+期間とともに用いる
- ③ 瞬間動詞は出来事の起点を表すため、原則として since+時点とともに用いる
- ④ 瞬間動詞は一瞬の出来事を表すため、完了形や進行形にすることはできない

(24) 現在形の主な意味・用法の組み合わせとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 現在の習慣・反復／現在の状態／一般的事実・真理／一般論／確定未来
- ② 現在の習慣・反復／現在進行中の一時的動作／現在までの経験／一般論／確定未来
- ③ 現在の状態／現在までの継続／現在進行中の一時的動作／一般的事実・真理／一般論
- ④ 現在の習慣・反復／現在までの経験／現在の一時的動作／一般論／現在までの完了

(25) once・twice・three times などの回数を表す語句があっても、last year など過去の特定期間における回数を述べる場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在形 ② 過去形 ③ 現在完了 ④ 現在完了進行形

(26) since+過去の時点と know・have・be などの状態動詞を用い、その状態が過去から現在まで続いている場合、原則としてどの形を用いるか。

- ① have+過去分詞 ② have been+V-ing ③ 過去形 ④ 現在形

(27) *I have lost my wallet yesterday.* が標準的な英文として不適切である理由を、現在完了と過去の特定时を表す表現との関係から説明したものを1つ選びなさい。

- ① lose は状態を表す動詞なので、現在完了形にすることができないから

- ② yesterday は完結した過去の特定时を示すため、原則として現在完了とは併用しないから
- ③ yesterday は動作の進行中の時点を示すため、現在完了進行形だけを用いるから
- ④ have lost は過去の経験だけを表し、現在に残る結果を表すことができないから

(28) 動作動詞を用いて、未来のある時点で一時的に進行中であると予想される動作を表す場合、原則としてどの形を用いるか。

- ① 現在進行形 ② 未来進行形 ③ 現在完了 ④ 未来完了

(29) 次のうち、一瞬で成立・完了するととらえられる出来事や変化を表す瞬間動詞だけで構成されているものを1つ選びなさい。

- ① study, work, wait, play
- ② know, belong, resemble, possess
- ③ arrive, die, begin, finish
- ④ run, swim, write, cook

(30) just と just now を「たった今」の意味で用いる場合の、時間のとらえ方と時制の基本的な違いとして最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① just も just now も現在との関係を表すため、必ず現在完了を用いる
- ② just も just now も過去の特定時を表すため、必ず過去形を用いる
- ③ just は現在との関係から直前の完了を表す場合は現在完了、just now は過去の時点として過去形を用いるのが基本である
- ④ just は過去の特定時を表すため過去形、just now は現在との関係を表すため現在完了を用いる

(31) since+過去の時点が表す時間関係について、現在完了とともに用いる場合の説明として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 過去のある時点から、別の過去の時点までの完結した期間を表す
- ② 過去のある時点を開始点として、そこから現在まで続く時間の広がりを表す
- ③ 現在を開始点として、そこから未来まで続く時間の広がりを表す
- ④ 過去の一時点だけを示し、その後の時間とのつながりは表さない

(32) have gone to ～ と have been to ～ について、現在の状況と過去の経験という観点から、その違いを正しく説明しているものを1つ選びなさい。

- ① have gone to ～ は訪問経験、have been to ～ は行ったまま戻っていないことを表す
- ② have gone to ～ は行って今ここにいないこと、have been to ～ は訪問した経験を表すのが基本である
- ③ have gone to ～ も have been to ～ も、現在までの訪問経験だけを表す
- ④ have gone to ～ も have been to ～ も、行ったまま現在ここにいないことを表す

(33) for+期間と study・work・wait などの動作動詞を用い、その動作が過去から現在まで途切れず続いていることを強調する場合、原則としてどの形を用いるか。

- ① 過去形 ② 現在形 ③ have+過去分詞 ④ have been+V-ing

(34) ago と before について、それぞれが「～前・以前」を表す際の時間の基準の違いとして最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① ago は現在を基準として「今から～前」、before は文脈上のある時点より前・以前を表す
② ago は過去の時点を基準として「それより前」、before は現在を基準として「今から～前」を表す
③ ago は現在まで続く期間、before は過去から現在までの継続期間を表す
④ ago は未来から見た過去、before は現在から見た未来の時点を表す

(35) 動作動詞を用いて、過去のある時点で一時的に進行中であった動作を表す場合、原則としてどの形を用いるか。

- ① 過去形 ② 現在進行形 ③ 過去進行形 ④ 過去完了

(36) How many times ～? が、現在までの経験ではなく、現在の習慣として「普段何回～するか」を尋ねる場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在形 ② 過去形 ③ 現在完了 ④ 現在完了進行形

(37) arrive・die・begin などの瞬間動詞を現在完了形にした場合、その出来事と現在との関係について、原則としてどのようにとらえるか。

- ① 瞬間的な出来事そのものが現在まで継続している
② その出来事・変化がすでに成立・完了している
③ その出来事が現在の習慣として繰り返されている
④ その出来事が未来に起こる予定として決まっている

(38) for+期間を含む文で現在完了系を用いるために重要となる、その期間と現在との時間的な関係として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① その期間が過去の中だけで完結し、現在とは切り離されている
② その期間が過去から現在まで広がり、現在を含んでいる
③ その期間が現在より後に始まり、未来にだけ広がっている
④ その期間が過去の一時点だけを示し、時間的な幅をもっていない

(39) 「彼が亡くなって 5 年になる。」という意味を表す次の英文のうち、since 節で示される過去の出来事の時制という観点から、正しくないものを1つ選びなさい。

- ① Five years have passed since he died.
② He has been dead for five years.
③ It has been five years since he died.
④ Five years have passed since he has died.

(40) usually・often・sometimes などの頻度を表す副詞を用いる場合、時制を決定する際の基本的な考え方として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 頻度を表す副詞があれば、現在との関係にかかわらず現在完了を用いる
- ② 頻度を表す副詞があれば、動作の継続を表すため現在完了進行形を用いる
- ③ 反復・習慣が属する時を基準として、現在形・過去形などの基本時制を用いる
- ④ 頻度を表す副詞があれば、過去の経験として過去完了を用いる

(41) die・begin・finish などの瞬間動詞を進行形にした場合、その一瞬の出来事そのものが継続するのではない。このときの意味として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 一瞬で成立した出来事の結果状態が長期間そのまま続いていることを表す
- ② その出来事・変化が成立する方向へ進み、成立までの途中の段階にあることを表す
- ③ 同じ瞬間的な出来事を過去から現在まで何度も経験してきたことを表す
- ④ 瞬間的な出来事が現在の習慣として一定の間隔で繰り返されることを表す

(42) never・ever・once・twice・～ times などを用いて、過去の特定期間ではなく、現在までを範囲とする経験の有無や回数を表す場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在形 ② 過去形 ③ 現在完了 ④ 現在進行形

(43) for+期間と know・have・be などの状態動詞を用い、その状態が過去から現在まで続いている場合、原則としてどの形を用いるか。

- ① have+過去分詞 ② have been+V-ing ③ 過去形 ④ 現在形

(44) 次のうち、状態を表す動詞を含まず、時間の中で行われる動作・行為を表す動作動詞だけで構成されているものを1つ選びなさい。

- ① run, take, know, visit
- ② belong, make, walk, work
- ③ study, cook, swim, write
- ④ stay, resemble, be, live

(45) How long ～? を用いて、ある状態・動作が過去に始まり現在までどのくらい続いているかを尋ねる場合、原則としてどの時制のグループを用いるか。

- ① 現在形 ② 現在完了系 ③ 過去形 ④ 未来形

(46) just「たった今」を用いて、ある動作がごく最近完了し、その完了を現在との関係からとらえる場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 過去形 ② 現在完了 ③ 現在形 ④ 現在進行形

(47) have gone to ～ / have been to ～ を現在完了の基本用法に対応させた場合、その組み合わせとして最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① have gone to ～ は「結果」、have been to ～ は「経験」を表すのが基本である
- ② have gone to ～ は「経験」、have been to ～ は「結果」を表すのが基本である

- ③ have gone to ～ は「継続」、have been to ～ は「完了」を表すのが基本である
- ④ have gone to ～ は「完了」、have been to ～ は「継続」を表すのが基本である

(48) yesterday のように、現在とは切り離された過去の特定の時点・期間を明示する表現がある場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在完了 ② 過去形 ③ 現在完了進行形 ④ 現在形

(49) 動作動詞について、状態動詞・瞬間動詞との違いを踏まえた説明として最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① 動作・行為を表し、その動作を時間的な幅をもつものとしてとらえることができる動詞
- ② 感情・所有・認識など、ある状態にあることだけを表す動詞
- ③ 一瞬で成立・完了する出来事や状態変化だけを表す動詞
- ④ 所有関係や所属関係など、比較的变化しにくい状態だけを表す動詞

(50) once・twice・three times などの回数表現を含む文について、現在完了と過去形を使い分ける基準として最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① 回数が明示されていれば、時の範囲に関係なく必ず現在完了を用いる
- ② 現在までを範囲とする経験・回数なら現在完了、終了した過去の期間内の回数なら過去形を用いる
- ③ 回数が明示されていれば、現在との関係にかかわらず必ず過去形を用いる
- ④ 回数表現は単純な反復だけを表すため、現在完了とともに用いることはできない

(51) die・begin・finish などの瞬間動詞を進行形にした場合の意味について、最も適切な説明を 1 つ選びなさい。

- ① その瞬間的な出来事が成立した後の結果状態が継続していることを表す
- ② その瞬間的な出来事・変化が成立するまでの途中の段階にあることを表す
- ③ その瞬間的な出来事を過去に一度経験したことがあることを表す
- ④ その瞬間的な出来事がすでに完全に終了したことだけを表す

(52) last week / last year / last Sunday などの last+時を表す語句は、現在とは区別された終了した過去の特定期間・時点を示す。この場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在完了 ② 現在完了進行形 ③ 過去形 ④ 現在形

(53) since+過去の時点を用いて現在までの継続を表す場合、状態動詞と動作動詞の基本的な形の違いとして最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- ① 状態動詞も動作動詞も、継続を表す場合は必ず have+過去分詞を用いる
- ② 状態動詞は have+過去分詞、継続中の動作動詞は have been+V-ing を用いるのが基本である
- ③ 状態動詞は現在進行形、動作動詞は過去進行形を用いるのが基本である
- ④ 状態動詞は since と併用できるが、動作動詞は since と併用することができない

(54) go・come・leave・arrive などの往来発着動詞の現在進行形について、現在の動作と未来の予定という観点から最も適切な説明を1つ選びなさい。

- ① 現在進行形なので、発話時点で実際に移動している場合にしか用いることができない
- ② 現在の進行中の移動に加えて、予定・手配された近い未来を表すこともできる
- ③ 未来を表す場合には必ず will を用いるため、現在進行形で未来を表すことはできない
- ④ 往来発着動詞を現在進行形にすると、現在までに完了した移動の経験を表す

(55) How long ～? を用いる疑問文について、現在形と現在完了系を使い分ける際の基準として最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① How long があれば期間を尋ねるため、時の範囲に関係なく必ず現在完了を用いる
- ② How long があれば現在の長さを尋ねるため、時の範囲に関係なく必ず現在形を用いる
- ③ 過去から現在までの継続期間なら現在完了系、普段の期間・所要時間なら基本的に現在形を用いる
- ④ How long は現在に関する期間だけを尋ねるため、過去形や未来表現とともに用いられない

(56) study・work・play などの動作動詞を usually・often・sometimes・every day などとともに用い、現在の習慣・反復として行われる動作を表す場合、原則としてどの時制を用いるか。

- ① 現在形 ② 現在進行形 ③ 現在完了 ④ 現在完了進行形

(57) yet と already を現在完了とともに用いる場合の、肯定文・疑問文・否定文における基本的な使い分けとして最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① yet は主に肯定文、already は主に否定文で用いる
- ② yet は主に疑問文・否定文、already は主に肯定文で用いる
- ③ yet も already も主に否定文で用い、肯定文では原則として用いない
- ④ yet も already も主に疑問文で用い、平叙文では原則として用いない

(58) 期間を表す語句とともに用いられる前置詞 in・for・during について、それぞれが表す時間的な意味と用法の違いを正しく説明しているものを1つ選びなさい。

- ① in は「ある時間が経過した後」、for は「動作・状態が続く期間の長さ」、during は「ある特定の期間・出来事の間」を表す
- ② in は「動作・状態が続く期間」、for は「ある時間が経過した後」、during は「ある時点から続く期間の長さ」を表す
- ③ in は「ある時間が経過した後」、for は「ある特定の期間・出来事の間」、during は「動作・状態が続く期間の長さ」を表す
- ④ in は「ある特定の期間・出来事の間」、for は「動作が始まるまでの時間」、during は「ある時間が経過した後」を表す

解答

- (1) ② (2) ② (3) ① (4) ③ (5) ① (6) ① (7) ③ (8) ② (9) ③ (10) ③
 (11) ③ (12) ④ (13) ① (14) ① (15) ③ (16) ③ (17) ③ (18) ① (19) ③ (20) ①
 (21) ① (22) ① (23) ① (24) ① (25) ② (26) ① (27) ② (28) ② (29) ③ (30) ③
 (31) ② (32) ② (33) ④ (34) ① (35) ③ (36) ① (37) ② (38) ② (39) ④ (40) ③
 (41) ② (42) ③ (43) ① (44) ③ (45) ② (46) ② (47) ① (48) ② (49) ① (50) ②
 (51) ② (52) ③ (53) ② (54) ② (55) ③ (56) ① (57) ② (58) ①

解答解説

- (1) 正解②: *since* は継続の起点、*for* は期間の長さ、*during* はある期間・出来事の間を表す。
 [解説] *since* は「いつから」という継続の起点を表し、*since 2020 / since Monday* のように用います。*for* は「どのくらいの間」という期間の長さを表し、*for three years / for two hours* のように用います。*during* は「ある期間・出来事の間」を表し、*during the summer / during the meeting* のように用います。したがって、*since*=起点/*for*=期間の長さ/*during*=特定の期間・出来事の間と整理します。
- (2) 正解②: 現在進行形
 [解説] *study・work・play* などの動作動詞で、現在の一時的な動作を表す場合は現在進行形〈*be + V-ing*〉を用います。現在形は *I study English every day.* のように、現在の習慣・反復を表すのが基本です。一方、*I am studying English now.* は「今勉強している」という現在を中心とした一時的な動作を表します。したがって、現在の習慣・反復=現在形/現在の一時的な動作=現在進行形と区別します。
- (3) 正解①: *have died* は出来事の完了、*have been dead* は状態の継続を表す。
 [解説] *die* は「死ぬ」という瞬間的な変化を表すため、*has died* は「死んだ」という出来事の完了を表します。一方、*dead* は「死んでいる」という状態を表す形容詞で、*has been dead* はその状態の継続を表します。したがって、「彼が亡くなって5年になる」は *He has been dead for five years.* と表すことができます。瞬間的な出来事の継続を表したい場合は、その結果として続く状態に言い換えることが重要です。
- (4) 正解③: 過去形
 [解説] *When ~? 「いつ~」*で過去の出来事を尋ねる場合は、その出来事が何時の時点で起こったかを問題にしています。現在完了は過去の出来事を現在との関係からとらえるため、原則として過去の具体的な時点とは結びつきません。したがって、「いつ京都を訪れましたか」は *When did you visit Kyoto?* のように過去形を用います。*When ~? = 過去の時点を尋ねる → 過去形*という関係を押さえておきましょう。
- (5) 正解①: *know, belong, resemble, like*
 [解説] 状態動詞は具体的な動作ではなく、認識・所属・類似・感情・所有などの状態を表す動詞です。*know*「知っている」・*belong*「所属している」・*resemble*「似ている」・*like*「好む」はすべて状態動詞です。一方、*study・work・run・cook* などは、時間の中で行われる具体的な動作・行為を表します。状態動詞は状態そのものを表すため、原則として進行形にしないことも重要な特徴です。続けます。(6)~(58)まで、すべて「正解+4行解説」で統一します。

(6) 正解①:現在完了

[解説]already「すでに・もう」を用いて、ある動作が現在までに完了していることを表す場合は、現在完了を用いるのが基本です。現在完了は、過去の出来事を単なる過去としてではなく、現在とのつながりをもつものとしてとらえます。たとえば、*I have already finished my homework.* は「私はもう宿題を終えた」という意味です。したがって、already＋現在までの完了＝現在完了という関係を基本として押さえます。

(7) 正解③:その3年間が現在まで続いているのか、過去の期間として終了しているのかを確認する。

[解説]for＋期間があるからといって、必ず現在完了になるわけではなく、その期間がいつまで続くかが重要です。*I have lived here for three years.* なら、その3年間は過去から現在まで継続しているため現在完了を用います。一方、*I lived there for three years.* なら、その3年間は過去の中で終了しているため過去形を用います。したがって、for を見て機械的に判断せず、期間と現在との関係を確認することが重要です。

(8) 正解②:すでに予定・手配されている近い未来

[解説]go・come・leave・arrive などの往来発着動詞は、現在進行形によって近い未来の予定を表すことがあります。たとえば、*I am leaving for Tokyo tomorrow.* は「私は明日東京へ出発する予定だ」という意味になります。この用法では、単なる未来の予測ではなく、すでに決まっている予定・手配があることを表すのが基本です。したがって、往来発着動詞＋現在進行形＝予定・手配された近未来という用法を押さえます。

(9) 正解③:現在完了

[解説]How many times ～? が「これまでに何回～したことがあるか」という現在までの経験・回数を尋ねる場合、現在完了を用います。たとえば、*How many times have you been to Kyoto?* は「これまでに何回京都へ行ったことがありますか」という意味です。一方、*last year* など過去の特定期間内の回数を尋ねる場合は、*How many times did you ～?* と過去形を用います。したがって、現在までの回数＝現在完了／終了した過去の期間の回数＝過去形と区別します。

(10) 正解③:状態・感情・所有・認識など、ある状態にあることを中心に表す動詞

[解説]状態動詞は具体的な動作・行為ではなく、人や物がどのような状態にあるかを表す動詞です。代表例には、know「知っている」、like「好む」、belong「所属する」、have「持っている」などがあります。これに対して、study・run などは動作動詞、arrive・die などは一瞬の出来事・変化を表す瞬間動詞です。状態動詞は状態そのものを表すため、原則として進行形にしないことも重要な特徴です。

(11) 正解③:現在を基準として「今から～前」という過去の時点を表すため、原則として過去形を用いる。

[解説]ago は現在を基準として、「今からどのくらい前か」という過去の時点を表します。たとえば、*three days ago* は「今から3日前」であり、現在まで続く期間ではなく過去の特定時を示します。そのため、*I met him three days ago.* のように、原則として過去形とともに用います。したがって、ago＝現在を基準に過去へさかのぼる表現 → 過去形と整理します。

(12) 正解④:have been＋V-ing

[解説]study・work・wait などの動作動詞で、過去に始まった動作が現在も続いていることを強調する場合は現在完了進行形を用います。現在完了進行形は have been＋V-ing の形で、「ず

っと～し続けている」という動作の継続を表します。たとえば、*I have been studying English since April.* は「4月からずっと英語を勉強している」という意味です。したがって、動作動詞＋現在までの継続＝have been＋V-ing が基本となります。

- (13) 正解①: never は「一度も～ない」、not は一般的な否定「～ない」を表す。

[解説] never は「一度も～ない・決して～ない」を表し、経験や頻度そのものを否定する語です。たとえば、*I have never seen the movie.* は「私はその映画を一度も見ることがない」という意味になります。一方、not は「～ない」という一般的な否定を表し、それ自体に「一度も」という意味はありません。したがって、never＝not ... ever「一度も～ない」／not＝一般的な否定と区別します。

- (14) 正解①: 現在進行中の動作／一時的な動作・状態／変化の途中／近い未来の予定

[解説] 現在進行形の中心的な意味は、現在を中心とする限られた時間の中で物事が進行しているということです。そこから、「今している動作」だけでなく、一時的な状況や変化の途中も表すことができます。また、*I am leaving tomorrow.* のように、予定・手配された近い未来を表すこともあります。したがって、現在進行形を単に「今～している」だけでなく、進行・一時性・変化・予定として理解します。

- (15) 正解③: 現在完了

[解説] before「以前に」を用いて「これまでに～したことがある」という現在までの経験を表す場合、現在完了を用います。たとえば、*I have seen him before.* は「私は以前彼に会ったことがある」という意味になります。ただし、before 自体が必ず現在完了を要求するのではなく、文脈によって過去形・過去完了などとも用いられます。したがって、before＋現在までの経験という文脈 → 現在完了と判断することが重要です。

- (16) 正解③: 一瞬で成立・完了するととらえられる出来事や状態変化を表す動詞

[解説] 瞬間動詞は、出来事や変化がある瞬間に成立するととらえられる動詞です。arrive「到着する」、die「死ぬ」、begin「始まる」、finish「終わる」などが代表例です。たとえば arrive は「到着するという出来事」が何時間も継続するのではなく、到着した時点で成立します。したがって、瞬間動詞は時間的な幅よりも、出来事が成立する点・変化点に焦点を置く動詞です。

- (17) 正解③: yesterday は特定の過去の時を表し、since yesterday は昨日を起点として現在までの広がりを表す。

[解説] yesterday は「昨日」という現在とは切り離された過去の特定期間を表すため、原則として過去形を用います。一方、since yesterday は「昨日から現在まで」という、過去の起点から現在への時間的な広がりを表します。したがって、*I was busy yesterday.* に対し、*I have been busy since yesterday.* のようになります。yesterday＝過去だけ／since yesterday＝過去から現在までという時間の違いを理解することが重要です。

- (18) 正解①: have opened は出来事の完了、have been open は状態の継続を表す。

[解説] *have opened* の open は動詞であり、「開く・開ける」という出来事が完了したことを表します。一方、*have been open* の open は形容詞で、「開いている」という状態が現在まで続いていることを表します。つまり、前者は出来事・変化の完了、後者はその結果として生じた状態の継続に焦点があります。したがって、have opened＝完了／have been open＝状態の継続と

区別します。

- (19) 正解③: その反復・習慣が現在・過去・未来のいつに属するかを確認して時制を決める。

[解説] often は「しばしば」という頻度を表しますが、それ自体が特定の時制を決定するわけではありません。現在の習慣なら *I often walk there.*、過去の習慣なら *I often walked there.* のように時制が変わります。つまり、重要なのは often の存在ではなく、その反復・習慣がいつのことなのかという時間の基準です。したがって、頻度副詞＝現在形と機械的に判断せず、文全体の時間関係から時制を決定します。

- (20) 正解①: go, come, leave, arrive

[解説] 往来発着動詞とは、人や物の移動・出発・到着などを表す動詞のことです。go「行く」、come「来る」、leave「出発する」、arrive「到着する」は、いずれも代表的な往来発着動詞です。これらの動詞は現在進行形にすると、現在進行中の移動だけでなく予定された近未来を表すことがあります。したがって、go・come・leave・arrive＝代表的な往来発着動詞としてまとめて覚えておきます。

- (21) 正解①: have + 過去分詞

[解説] yet を「もう～しましたか」「まだ～していません」の意味で用いる場合、現在までの完了・未完了を問題にしています。そのため、*Have you finished yet?*「もう終わりましたか」のように現在完了とともに用いるのが基本です。否定文でも、*I haven't finished yet.*「私はまだ終わっていない」のように現在完了を用います。したがって、yet＝現在までに「もう／まだ」→ have + 過去分詞という関係を押さえます。

- (22) 正解①: 現在形

[解説] How long ～? が使われていても、「今までどのくらい続いているか」を尋ねるとは限りません。*How long does it take to get there?* のように、普段の所要時間・通常の期間を尋ねる場合は現在形を用います。一方、*How long have you lived here?* は過去から現在までの継続期間を尋ねるため現在完了になります。したがって、普段の期間・所要時間＝現在形／現在までの継続期間＝現在完了系と区別します。

- (23) 正解①: 瞬間動詞が表す出来事自体の継続を for / since で表すことは原則としてできない。

[解説] arrive・die・begin・finish などの瞬間動詞は、一瞬で成立するととらえられる出来事・変化を表します。そのため、その出来事そのものを *for five years* などで「5年間ずっと」と継続させることは原則としてできません。「5年間死んでいる」なら *has died for five years* ではなく、*has been dead for five years* と状態に言い換えます。したがって、瞬間的な出来事の継続 → その結果として続く状態を表す表現に置き換えることが重要です。

- (24) 正解①: 現在の習慣・反復／現在の状態／一般的事実・真理／一般論／確定未来

[解説] 現在形は、現在の一瞬だけではなく、現在を含めて安定して成立している事柄を表すのが基本です。そのため、習慣・反復、現在の状態、一般的事実・真理、一般論などを表すことができます。さらに、*The train leaves at seven tomorrow.* のように、時刻表・予定表などの確定未来にも用いられます。したがって、現在形は習慣・状態・一般性・確定した予定を表す時制として幅広く用いられます。

- (25) 正解②: 過去形

[解説] once・twice・three times などの回数表現があっても、それだけで現在完了になるわけではありません。*I visited Kyoto three times last year.* のように、終了した過去の特定期間

内の回数なら過去形を用います。一方、*I have visited Kyoto three times.* なら「これまでに 3 回」という現在までの経験なので現在完了です。したがって、回数そのものではなく、その回数を数えている時間の範囲によって時制を判断します。

(26) 正解①: have + 過去分詞

[解説] know・have・be などの状態動詞は、状態そのものを表すため、原則として進行形にはしません。過去に始まった状態が現在まで続いている場合は、現在完了(have + 過去分詞)で継続を表します。たとえば、*I have known him since 2020.* は「2020 年から彼を知っている」という意味になります。したがって、状態動詞の現在までの継続 = have + 過去分詞を基本とします。

(27) 正解②: yesterday は完結した過去の特定時を示すため、原則として現在完了とは併用しない。

[解説] 現在完了は、過去の出来事を単なる過去ではなく、現在とのつながりをもつものとしてとらえる時制です。一方、yesterday・last week・two days ago などは、現在とは切り離された終了した過去の特定時を表します。そのため、*I have lost my wallet yesterday.* ではなく、*I lost my wallet yesterday.* と過去形を用います。したがって、現在完了 + 終了した過去の特定時を表す表現は原則として併用しないと理解します。

(28) 正解②: 未来進行形

[解説] 未来のある時点で「～しているところだろう」という進行中の動作を表す場合は未来進行形を用います。未来進行形は will be + V-ing の形で、未来の基準時に動作の途中にすることを表します。たとえば、*This time tomorrow, I will be flying to Tokyo.* は「明日の今ごろ東京へ向かっているだろう」です。したがって、未来のある時点 + 進行中の動作 = will be + V-ing と整理します。

(29) 正解③: arrive, die, begin, finish

[解説] 瞬間動詞は、時間的な幅のある動作ではなく、ある瞬間に出来事・変化が成立するととらえられる動詞です。arrive「到着する」、die「死ぬ」、begin「始まる」、finish「終わる」は、いずれもその成立点を表します。一方、study・work・wait・play などは時間的な幅をもつ動作を表し、know・belong などは状態を表します。したがって、arrive・die・begin・finish = 出来事の成立点を表す瞬間動詞となります。

(30) 正解③: just は現在完了、just now は過去形を用いるのが基本である。

[解説] 本教材では、just「たった今」が現在との関係から直前の完了を表す場合、現在完了を基本とします。たとえば、*I have just finished my homework.* は「私はたった今宿題を終えた」という意味になります。一方、just now「ついさっき」は過去の時点として扱い、*I saw him just now.* のように過去形を用います。したがって、基本的には just + 現在完了 / just now + 過去形という違いを押さええます。

(31) 正解②: 過去のある時点を起点として、そこから現在まで続く時間の広がりを出す。

[解説] since + 過去の時点は、「その時から」という継続の起点を示す表現です。現在完了とともに用いる場合、その起点から現在まで状態・動作が続いているという時間関係を表します。たとえば、*I have lived here since 2020.* は「2020 年から現在までここに住んでいる」という意味です。したがって、since = 過去の起点 → 現在までの時間的な広がりとして理解します。

(32) 正解②: have gone to ～ は行って今ここにいないこと、have been to ～ は訪問経験を表

す。

[解説]have gone to ～ は「～へ行ってしまった」という意味で、原則としてその人が現在ここにいないことを表します。一方、have been to ～ は「～へ行ったことがある」という、現在までの訪問経験を表すのが基本です。たとえば、*He has gone to London.* と *He has been to London.* では、現在の居場所についての意味が異なります。したがって、have gone to＝行った結果／have been to＝訪問した経験と区別します。

(33) 正解④:have been+V-ing

[解説]study・work・wait などの動作が過去に始まり、現在まで継続中であることを強調する場合は現在完了進行形を用います。現在完了進行形は have been + V-ing の形をとり、動作が一定期間続いていることに焦点を置きます。たとえば、*I have been waiting for two hours.* は「私は 2 時間ずっと待っている」という意味になります。したがって、動作動詞 + for + 現在までの継続＝have been + V-ing が基本です。

(34) 正解①:ago は現在を基準、before は文脈上のある時点より前を表す。

[解説]ago は現在を基準として、「今から～前」という過去の時点を表します。たとえば、*three years ago* は「今から 3 年前」という意味で、原則として過去形とともに用います。一方、before は「以前に・ある時点より前に」を表し、基準時点は文脈によって現在にも過去にもなります。したがって、ago＝現在が基準／before＝文脈上の基準時点より前という違いを押さえます。

(35) 正解③:過去進行形

[解説]過去のある時点で一時的に進行中だった動作を表す場合は、過去進行形を用います。過去進行形は was / were + V-ing の形で、過去の基準時に動作の途中であったことを示します。たとえば、*I was studying English at eight last night.* は「昨夜 8 時には英語を勉強していた」です。したがって、過去のある時点 + 進行中の動作＝was / were + V-ing と整理します。

(36) 正解①:現在形

[解説]How many times ～? が現在までの経験ではなく、現在の習慣としての回数を尋ねる場合は現在形を用います。たとえば、*How many times a week do you exercise?* は「週に何回運動しますか」という現在の習慣を尋ねています。一方、「これまでに何回～したことがありますか」なら How many times have you ～? と現在完了を用います。したがって、現在の習慣的回数＝現在形／現在までの経験回数＝現在完了と区別します。

(37) 正解②:その出来事・変化がすでに成立・完了している。

[解説]arrive・die・begin などの瞬間動詞は、一瞬で成立するととらえられる出来事・変化を表します。これを現在完了にすると、その瞬間的な出来事そのものが現在まで続いているという意味にはなりません。たとえば、*He has arrived.* は「彼は到着した」という到着という出来事の成立・完了を表します。したがって、瞬間動詞 + 現在完了＝出来事・変化の成立や完了を表すのが基本です。

(38) 正解②:その期間が過去から現在まで広がり、現在を含んでいる。

[解説]for + 期間を現在完了系とともに用いる場合、その期間は過去だけで完結せず、現在まで続いている必要があります。*I have lived here for five years.* なら、5 年間という期間が過去に始まり、発話時である現在まで広がっています。過去の中で終了した期間なら、*I lived there for five years.* のように過去形を用いることができます。したがって、現在完了系の for + 期間

= 過去から現在までを含む期間と考えます。

- (39) 正解④: Five years have passed since he has died.

[解説] It has been ~ since ... / ~ have passed since ... では、since 節が継続の起点となる過去の出来事を示します。そのため、「彼が死んだ」という起点は *since he died* のように過去形で表すのが基本です。① *Five years have passed since he died.*、② *He has been dead for five years.*、③ *It has been five years since he died.* は正しい表現です。したがって、since 節を *he has died* と現在完了にした④がこの設問では不適切です。

- (40) 正解③: 反復・習慣が属する時を基準として、現在形・過去形などの基本時制を用いる。

[解説] usually・often・sometimes などの頻度副詞は、動作がどの程度繰り返されるかを表す語です。現在の習慣なら現在形、過去の習慣なら過去形というように、その習慣がいつのことかによって時制が変わります。たとえば、*I usually walk to school.* と *I usually walked to school when I was young.* では時制が異なります。したがって、頻度副詞そのものではなく、反復・習慣が属する時間を基準に時制を判断します。

- (41) 正解②: その出来事・変化が成立する方向へ進み、成立までの途中の段階にあることを表す。

[解説] die・begin・finish などの瞬間動詞は、本来、一瞬で成立するととらえられる出来事・変化を表します。これを進行形にすると、その一瞬の出来事そのものが長時間続くのではなく、成立に向かう過程を表します。たとえば、*The patient is dying.* は「死ぬという変化に向かっている=死にかけている」という意味になります。したがって、瞬間動詞の進行形=出来事・変化が成立するまでの途中の段階と理解します。

- (42) 正解③: 現在完了

[解説] never・ever・once・twice・～ times などを用いて、現在までを範囲とする経験の有無・回数を表す場合は現在完了を用います。たとえば、*I have visited London twice.* は「これまでにロンドンを 2 回訪れたことがある」という意味です。一方、*I visited London twice last year.* なら、終了した過去の期間内の回数なので過去形を用います。したがって、現在までの経験・回数=現在完了／過去の特定期間内の回数=過去形と区別します。

- (43) 正解①: have + 過去分詞

[解説] know・have・be などの状態動詞は、原則として進行形にせず、現在完了によって状態の継続を表します。たとえば、*I have known him for ten years.* は「私は 10 年間彼を知っている」という意味になります。この場合、10 年間という期間が過去から現在まで続き、「知っている」という状態も現在まで継続しています。したがって、状態動詞 + for + 現在までの継続 = have + 過去分詞が基本です。

- (44) 正解③: study, cook, swim, write

[解説] 動作動詞は、人や物が時間の中で行う具体的な動作・行為を表す動詞です。study「勉強する」、cook「料理する」、swim「泳ぐ」、write「書く」は、いずれも時間的な幅をもつ動作を表します。一方、know・belong・resemble・be などは、具体的な動作ではなく認識・所属・類似・状態などを表します。したがって、すべて動作動詞だけで構成されている③が正解です。

- (45) 正解②: 現在完了系

[解説] How long ～? で、過去に始まった状態・動作が現在までどのくらい続いているかを尋ね

る場合は現在完了系を用います。状態動詞なら *How long have you known him?* のように現在完了を用いるのが基本です。動作動詞の継続なら *How long have you been studying English?* のように現在完了進行形を用いることがあります。したがって、過去から現在までの継続期間を尋ねる *How long ~?* = 現在完了系と整理します。

(46) 正解②:現在完了

[解説]just「たった今」を用いて、直前に完了した動作を現在との関係からとらえる場合は現在完了を用いるのが基本です。たとえば、*I have just finished my homework.* は「私はたった今宿題を終えた」という意味になります。現在完了を用いることで、単なる過去の出来事ではなく、その完了が現在に近接していることを表します。したがって、本教材では just + 現在までの直前の完了 = 現在完了を基本として扱います。

(47) 正解①:have gone to ~ は「結果」、have been to ~ は「経験」を表すのが基本である。

[解説]have gone to ~ は「~へ行ってしまった」という移動の結果、現在その人がここにいることを表します。これは現在完了の結果用法として考えることができ、過去の移動の結果が現在に残っています。一方、have been to ~ は「~へ行ったことがある」という現在までの経験を表すのが基本です。したがって、have gone to = 結果 / have been to = 経験という対応を押さえます。

(48) 正解②:過去形

[解説]yesterday は、現在とは切り離された「昨日」という終了した過去の特定時を表す表現です。そのため、過去の出来事を現在との関係からとらえる現在完了ではなく、原則として過去形を用います。たとえば、*I saw him yesterday.* は正しいですが、*I have seen him yesterday.* は標準的には用いません。したがって、yesterday・last week・~ ago などの過去の特定時 → 過去形と整理します。

(49) 正解①:動作・行為を表し、その動作を時間的な幅をもつものとしてとらえることができる動詞

[解説]動作動詞は、study・run・work・write など、時間の中で行われる具体的な動作・行為を表します。これらは動作に時間的な幅があるため、*is studying* / *was running* のように進行形にすることができます。一方、know・belong などは状態動詞、arrive・die などは出来事の成立点を表す瞬間動詞として分類できます。したがって、動作動詞 = 時間的な幅をもつ動作・行為を表す動詞と理解します。

(50) 正解②:現在までの経験・回数なら現在完了、終了した過去の期間内の回数なら過去形を用いる。

[解説]once・twice・three times などの回数表現そのものが時制を決定するわけではありません。*I have visited Kyoto three times.* なら、現在までを範囲として数えているため現在完了を用います。一方、*I visited Kyoto three times last year.* なら、終了した過去の期間内の回数なので過去形を用います。したがって、回数を数える時間の範囲が現在を含むか、過去で終了しているかが判断基準です。

(51) 正解②:その瞬間的な出来事・変化が成立するまでの途中の段階にあることを表す。

[解説]瞬間動詞を進行形にしても、本来一瞬で成立する出来事そのものが長時間継続するわけではありません。進行形にすることで、その出来事が成立する直前・途中の過程や変化の進行を表すことができます。たとえば、*The train is arriving.* は「列車が到着しつつある」という到着に至る過程を表します。したがって、瞬間動詞 + 進行形 = 瞬間的な出来事が成立するまでの途中の段階

と考えます。

(52) 正解③:過去形

[解説]last week / last year / last Sunday などの last+時を表す語句は、終了した過去の特定期間・時点を表します。そのため、過去の出来事を現在との関係からとらえる現在完了ではなく、原則として過去形を用います。たとえば、*I visited Kyoto last year.* は正しいですが、*I have visited Kyoto last year.* とはしません。したがって、last+時を表す語句＝終了した過去の特定時 → 過去形と整理します。

(53) 正解②:状態動詞は have+過去分詞、継続中の動作動詞は have been+V-ing が基本である。

[解説]現在までの継続を表す場合でも、動詞が状態を表すか、継続する動作を表すかによって基本形が異なります。know・be などの状態動詞なら、*I have known him since 2020.* のように現在完了を用います。study・work などの継続中の動作なら、*I have been studying since April.* のように現在完了進行形が基本です。したがって、状態の継続＝have+過去分詞／動作の継続＝have been+V-ingと整理します。

(54) 正解②:現在の進行中の移動に加えて、予定・手配された近い未来を表すこともできる。

[解説]go・come・leave・arrive などの往来発着動詞は、現在進行形で現在進行中の移動を表すことができます。さらに、*I am leaving tomorrow.* のように、すでに予定・手配されている近い未来を表すこともあります。この場合、未来を表していても will を必ず用いるわけではなく、現在進行形によって予定の確定性を示します。したがって、往来発着動詞の現在進行形＝現在の移動／予定された近未来の両方が可能です。

(55) 正解③:現在までの継続期間なら現在完了系、普段の期間・所要時間なら基本的に現在形を用いる。

[解説]How long ～? という表現だけを見て、機械的に現在完了を選ぶことはできません。*How long have you lived here?* なら、過去から現在までの継続期間を尋ねるため現在完了を用います。一方、*How long does it take?* なら、普段の所要時間を尋ねているため現在形を用います。したがって、「今までどのくらい」＝現在完了系／「普段どのくらい」＝現在形と区別します。

(56) 正解①:現在形

[解説]study・work・play などの動作動詞で、現在の習慣・反復を表す場合は現在形を用いるのが基本です。usually・often・sometimes・every day などは、現在の習慣を示す手掛かりとしてよく用いられます。たとえば、*I study English every day.* は「私は毎日英語を勉強する」という習慣を表しています。したがって、現在の習慣・反復＝現在形／現在の一時的な動作＝現在進行形と区別します。

(57) 正解②:yet は主に疑問文・否定文、already は主に肯定文で用いる。

[解説]yet は現在完了とともに、疑問文では「もう」、否定文では「まだ」という意味で用いるのが基本です。*Have you finished yet? / I haven't finished yet.* のように、通常は文末に置かれます。一方、already「すでに・もう」は肯定文で用いることが多く、*I have already finished.* のように表します。したがって、基本的には yet＝疑問文・否定文／already＝肯定文と整理します。

(58) 正解①:in は経過後、for は期間の長さ、during は特定の期間・出来事の間を表す。

[解説]in+期間は *in three days*「3 日後に」のように、ある時間が経過した後の時点を表します。
for+期間は *for three days*「3 日間」のように、動作・状態が続く期間の長さを表します。
during+期間・出来事は *during the summer* / *during the meeting* のように、ある特定の期間の中を表します。したがって、in=経過後／for=期間の長さ／during=特定の期間・出来事の間と区別します。